

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

C H N E
エヴァンゲリオン・クロニクル

08

定価 **690円** (税込)

2010/3/30

Mechanic Sheet

ジェットアローン (J.A.)

14式大型架橋自走車/
無人観測機

Character Sheet

洞木ヒカリ

NERV男性オペレーター

Tactics Sheet

使徒捕獲作戦

Timeline Sheet

決戦、第3新東京市

Installation Sheet

ゼーレ

Technology Sheet

エントリープラグ

Extra Sheet

用語辞典 / 企画書 / トピックス



特製 **バインダー**
発売中!

DEAGOSTINI

総代理 deagostini.jp

EVANGELION
CHRONICLE

08 目次 | CONTENTS

【発行日】 2010年3月30日
 【発行】 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
 〒104-0045
 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル

【発行人】 小河原和世
 【編集人】 クロス中山慶子
 【チーフエディター】 安部 肇
 【印刷】 大日本印刷株式会社
 ©2010 K.K.DeAgostini Japan. All rights reserved.
 【編集協力】 株式会社ウィーヴ (石川裕仁/田代 豪/久保圭正/多摩ら)
 【監修】 株式会社ガイナックス
 ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA制作委員会
 <オリジナル版>

【編集協力】 有線会社 メガロメディア(富田英樹/高村孝徳/渡邊洋三/
 加藤和弘/山田慶貴/桑木貴章/鈴木浩治/公孫樹直樹)
 【執筆】 TRAP(西川紗矢/遠藤智子/樋子尚貴
 【イラスト】 市川裕文/深澤洋一(M.I.C.)/木下とまたけ/
 射尾卓然/稲沼安希雄
 【デザイン】 ローカル・サポート・イベントメント(南田英典/山岡正明)
 株式会社 インフォビジョン(河野幹哉/阿川純史/両部将之)

<新訂版>
 【編集協力】 スタジオ・ハードデラックス株式会社(伊藤桃香/米良真一)
 【デザイン】 スタジオ・ハードデラックス株式会社(松本優典)

●書店向け注文受注センター

(書店様からのご注文を承ります)

☎ 03-5212-5311

(月~金 9:30~17:30 土日祝日も除く)

☎ 03-5212-5312

●読者サービスセンター

(本誌関連の一般的な質問を承ります)

☎ 0570-008-109

(月~金 10:00~18:30 土日祝日も除く)

※本商品は2006年に刊行された「EVANGELION × クロニクル」(発売:ゾニー・マガジンズ)に改訂を加えて刊行するものです。

Mechanic Sheet メカニックシート

ジェットアローン(J.A.)

01-04

14式大型架橋自動車/無人観測機

09-10

Character Sheet キャクターシート

洞木ヒカリ

05-08

NERV男性オペレーター

11-12

Timeline Sheet タイムラインシート

決戦、第3新東京市

13-16

Tactics Sheet タクティクスシート

使徒捕獲作戦

17-18

Installation Sheet インストールレーションシート

ゼーレ

19-20

Technology Sheet テクノロジーシート

エントリープラグ A

21-22

Extra Sheet エクストラシート

用語辞典

23-24

企画書

25-28

トピックス

29-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちら!

PCサイト

▶ http://www.gainax.co.jp/animewa/

携帯サイト ▶ http://vpp.gainax/eva/

エヴァンゲリオン オフィシャルストア

▶ http://www.evastore.jp/



ココからGO!

本誌の最新情報をCheck!

PCからホームページからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/eva/>



定期購読のご案内

選刊「EVANGELION × クロニクル 新訂版」は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ全巻が確実にお手元へ届くように、書店を通じた定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読センターに電話またはFAXで

☎ 0120-300-851

(9:00~21:00 年中無休)

☎ 0120-834-353

(定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)

2. インターネットで

<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)

※クレジットカードも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送

(「定期購読のお知らせ」セットが郵元でない場合は受注センターまでご連絡ください。)

特製バインダー発売中!!

選刊「EVANGELION × クロニクル 新訂版」は特製バインダー4冊に収まります。EVANGELION オン百科を完成させるのに不可欠な特製バインダー2・3巻の2冊セットを割刊特別価格990円(税込)で発売しております。お近くの書店でお求めください。

※割刊特別価格は2010年6月末までの期間限定となります。

※それ以降は通常価格1,790円(税込)となります。

※4巻目のバインダーは、第3号までプレゼントいたします。

〒104-0045 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル2階
 2F〒104-0045 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル2階
 (注) 1. 個人情報は印刷用紙に印刷の上、郵送し頂くことになります。印刷料・送料等は別途お支払い頂きます。
 2. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 3. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 4. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 5. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 6. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 7. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 8. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 9. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 10. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 11. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 12. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 13. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 14. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 15. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 16. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 17. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 18. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 19. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 20. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 21. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 22. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 23. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 24. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 25. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 26. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 27. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 28. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 29. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 30. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 31. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 32. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 33. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 34. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 35. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 36. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 37. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 38. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 39. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 40. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 41. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 42. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 43. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 44. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 45. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 46. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 47. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 48. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 49. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 50. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 51. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 52. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 53. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 54. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 55. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 56. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 57. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 58. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 59. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 60. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 61. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 62. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 63. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 64. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 65. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 66. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 67. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 68. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 69. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 70. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 71. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 72. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 73. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 74. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 75. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 76. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 77. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 78. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 79. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 80. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 81. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 82. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 83. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 84. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 85. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 86. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 87. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 88. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 89. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 90. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 91. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 92. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 93. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 94. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 95. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 96. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 97. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 98. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 99. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。
 100. 本誌の発行は毎月10日頃です。送料は別途お支払い頂きます。送料は別途お支払い頂きます。



日本重化学工業共同体製
巨大人型自走兵器

ジェットアローン



ヒトの造りし
対使徒用兵器



民間
JET
ALONE

謀略に消えた不遇の兵器

使徒という脅威さえも、ヒトは利益獲得の手段と成す。NERVと繋がりのある企業は、物品や作業等の受注を受けるなど様々な恩恵を得ている。それが「NERV利権」といえる。その一方、葛城ミサト曰く「ウチの利権にあふれた連中」である企業も多い。それらが集う日本重化学工業共同体により建造された対使徒兵器がジェットアローン (J.A.) である。これがNERVが独占する対使徒の莫大な予算と、それに絡む利権を狙う兵器パフォーマンスなのは明白であろう。

完成披露記念会によって公試運転されたJ.A.だったが、NERVによる妨害工作により制御不能に陥った結果、計画は白紙となる。J.A.が使徒に太刀打ちできるか否かはともかく、正当な評価が成されるまえに同機は闇へと葬られてしまうのであった。

NERVの所有するEVAは未知の存在を元に建造したものであり、人類自身の力で作り上げたとは言えない。このJ.A.こそ「技術の粋を尽くした」と称するにふさわしい兵器であろう。



制御不能に陥ったJ.A.を停止させるため、ミサトの判断によりEVAを運用。初号機に止めを任せ、彼女は手動による停止を試みる。



J.A.停止のキーワードは何者かに変更されていた。そのため、制御棒を押し込むという人力での停止に全てを賭け、奮闘するミサト。

DATA

機体: JET ALONE

巨大人型自走兵器
ジェットアローン

操縦: REMOTE CONTROL

遠隔操縦

動力: NUCLEAR REACTOR

核分裂炉

主武装: WEAPON

なし

機体配色: COLOR



造った人に似て
礼儀知らずな
ロボットね (葛城ミサト)

前面

FRONT

側面

SIDE

関連事項

- 時田シロウ
- 葛城ミサト
- J.A.停止作戦
- 日本重化学工業共同体



J.A.の開発責任者。EVAの情報を握る自分が優位と考えたのか、完成披露記念会の裏で赤木リツコの質問に皮肉で応じた。

J.A.の構造

遠隔制御により無人稼働し機体内に動力を持つという、EVAとは真逆の機体コンセプトを有する兵器。二足歩行による不整地走行能力と5指を有するマニピュレーターを持つことから、汎用性は高いと思われる。また、蛇腹構造を用いた腕を採用しており、人体の関節とはまた異なる柔軟な動きを実現した。



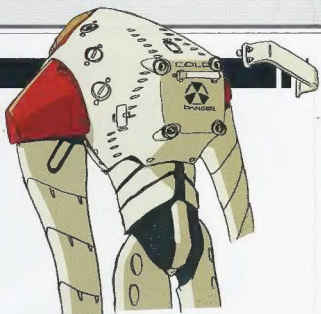
↑板金を重ね合わせたような造りの首まわり。インターフェースの部分からは、炉心融解が近づくと大量の水蒸気が発生している。

バックパック

小型リアクターが搭載された背面のバックパック。その左右には、核反応を制御するための制御棒が合計6本備わっており、この制御棒の数によって出力調整を行っていると見られる。また、作業用スタップのほか巨大フックも備えており、これを初号機が掴むことで動きを止め、ミサトをJ.A.に乗り移らせた。



非常用手動制御室に続く非常用ハッチ。手でレバーを半回転させ、シリンダーを引き出すことで開く。



↑背面

脚部

腰部から下は両脚ともに蛇腹構造の多関節を用い、二足歩行を可能とした。また、股関節と足首などの可動部分は、動きの妨げにならないようにゴム状のカバーによって保護されている。J.A.は、人体を模して生体パーツにより構成されるEVAとは、別の切り口を用いて実現した人型兵器である。

左右の腕を別々に操作しているが、暴走時を見るに、プログラムによる自動歩行が可能であると思われる。



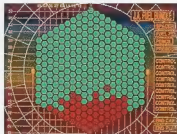
↑足首

動力と非常用手動制御室

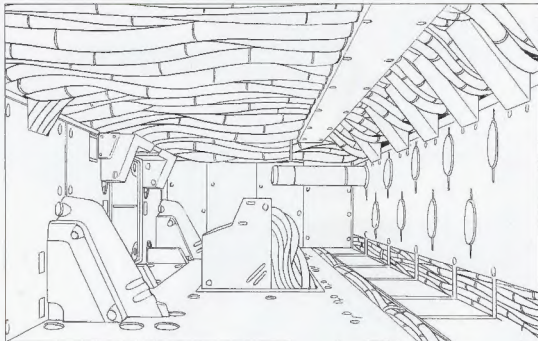
内蔵電源では5分しか保たないEVAを見るに、巨大ロボットの稼働を賄うためには莫大なエネルギーを要することがわかる。その点J.A.は核分裂炉を動力としており、連続150日間の作戦行動に耐え得る性能を持つ。しかしながら、格納庫を前線とした兵器としては物量であり、破壊されることで周囲への被害といった危険をはらんでいる。当然ながら原子炉の危険性は十分認識されており、非常時の手动制御室をバックパックに持つ。このコンソールパネルからパスワード「希望」を入力することでJ.A.は停止する。



トーチカにある制御室からの稼働信号が途切れることで、バックパックの非常用ハッチが手動で開くようになっている。



原子炉内にある六角形の燃料集合体には、合計271本の燃料棒（円柱形に成形した核燃料）が用いられている。



↑非常用手動制御室(中)

J.A.の活動記録

J.A.の公試運転は旧東京再開発臨海部国立第3試験場にて行なわれた。初期起動後に歩行試験へと移行するが、いくも歩かぬうちにリアクターの内圧が上昇し、制御不能となる。緊急停止を決定する時のだが、J.A.は停止信号を受信せず、トーチカを踏み抜いて前進を継続。炉心融解の危機に、責任者の時田は自然停止に頼ろうとする。それをよしとしないミサトはEVAを用いての停止作戦を独断で実行。単身J.A.に乗り込むが、停止のためのパスワードは何者かに変更されていた。ミサトの努力も空しく、内圧は臨界点を突破して爆発寸前になるが、その直後停止プログラムが起動。何者かの工作でJ.A.は無事停止するのだった。



ミサトをバックパックへ乗せた初号機によって、足止めされるJ.A.。前進するだけEVAを引ずる出力を持つが、実際の戦闘能力は未知数であった。



特記事項

NERV諜報部の暗躍

使徒と「唯一」渡り合える組織NERVにとって、僅かでもEVAと並び立つ可能性のあるJ.A.は目障りであった。そのため裏工作によりJ.A.の暴走を演じつつ、NERV介入による事件収束を計画して考えられる。これはNERVの必要性をアピールするだけでなく、「妨害工作を実行可能な実力を備える組織」だと、敵対勢力に釘を刺す意味合いもあったのではなからうか。

諜報部の人間と共に、「葛城一派の行動以外はシリオ通り」と皮ガンドウへ報告するリツコ。結局J.A.は兵器ではなく政治の道具として使われ、消えゆくのだった。

キャラクターシート

Character Sheet

洞木ヒカリ

Sheet

14

HIKARI HORAKI



学級委員長を
務める



民間

洞木ヒカリ

HIKARI HORAKI

真面目で
家庭的な少女



個人情報

名前	洞木ヒカリ
年齢	14歳
国籍	日本
生年月日	A.D.2002/02/18
血液型	不明
所属	第3新東京市立第壱中学校

洞木ヒカリは、EVA操縦適格者たちが通う第3新東京市立第壱中学校、2年A組のクラス委員長を務める少女である。家族構成についてはコダマという姉と、ノゾミという妹がいるが、両親の所在については不明である。EVA操縦適格者の候補が集められている2年A組に在籍すること、また、家事をヒカリがすべて担当していることから母親は他界していると推測されるが、その真相は定かではない。

性格的には生真面目で、思ったことをはっきりと言える一面を持つため、委員長の任には非常に適した人材であるヒカリ。少々怒りっぽく見える部分も、責任感の強さによるものと考えられる。しかし、そういった性質ゆえに鈴原トウジをはじめとする男子からは「面倒な存在」と思われることがあり、客観的に見れば、女子よりも男子にきつく当たる部分があったことも否めない。家事を一手に任されるほどのしっかり者であるヒカリにとっては、同年代の男子は「手のかかる子供」のような存在に映ったのかもしれない。

ヒカリに関するどの要素を取っても、普通の「14歳の少女」であり、目立った特徴は見当たらない。しかし、ともしれば彼女は、操縦適格者としてEVAに搭乗していたかもしれない存在だったことは間違いない。そう考えるとヒカリは、否応なしに戦いに身を投じることとなった碓辛ジジ、状況的にEVAに搭乗することを選ばざるを得なかったであろうウヅラと比べ、幸せな境遇に置かれた少女だったといえるだろう。

表情 / 服装



ブライドを傷つけられて部屋から駆け出したアスカ。そんなアスカを見たヒカリは、激怒してシンジに食ってかかった。

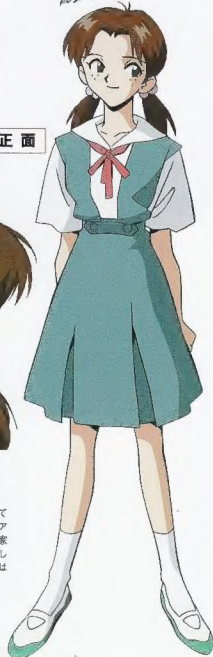
一瞬にあるそばかすが高粒さを感じさせるヒカリ。14歳しからぬしかり着の彼女だが、外面的には年相応の少女であり、様々な表情を見る。



→14歳の少女らしきと共に、どこか母性的な様さを感じさせるヒカリの笑顔。どちらの印象も、彼女の持つ雰囲気が高く評価した結果といえる。

→クラスからクラスメイトと戯笑しているときなどによく見られる、種やかな笑顔を浮かべるヒカリ。少女らしい可愛さを感じさせる表情である。

正面



背面

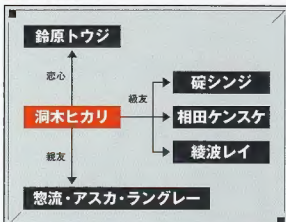


→やや長めの髪は、いつも後ろでふたつにまとめ、ピンクの球状の髪飾りをつけている。きつちりとした真中で分けて結われている髪からも、ヒカリの生真面目な性格が見える。



ピンクのチャイロ風の上下を部屋着として着用しているヒカリ。基本的に可愛らしい衣服を好むものと推測できる。

人物関連図



- 関係者
- 鈴原トウジ
- 惣流・アスカ・ラングレー
- 2年A組



第3新東京市立第壱中学校に通う、シンジのクラスメイト。転入半年のシンジにつきあっているが、後に親友となる。

キャラクターシート

Character Sheet

洞木ヒカリ

Sheet

14

HIKARI HORAKI

洞木ヒカリ

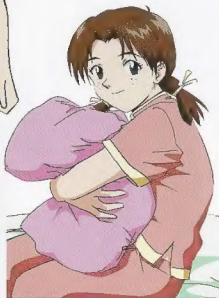
という存在



一語かに話しかけるときのヒカリは、強力視線を奮わせようとする。まっすぐな性格によるところだろう。



→真面目な印象を与える制服とはかけ離れたイメージの、ピンクのチャイナ服風パジャマを使用しているヒカリ。委員長という立場から離れた非常なリラックスしているためか、より少女らしい表情を浮かべているのが印象的。



授業中は真剣な面持ちで学業に励み、休み時間にはクラスの友人と他愛ない会話を楽しんだり、時には恋愛について密かに心を悩ませることもある——、そんな洞木ヒカリの日常は、いかにも「普通の中学生の女子」らしいものだ。学校生活以外でも、自宅にゲーム機を置いていることから、真面目なばかりではなく遊戯的なことも好むと推測されるし、料理に興味を持つこともまた、年頃の少女としてはそう珍しいことでもないだろう。

2015年においては、多くの少年少女が、否否なく「使徒襲来」という危険と隣り合わせの場を置くことを強いられた。特に碇シンジをはじめとする適格者はその特殊な環境の最前線にいたため、生活や性格的な部分において、一般的な少年少女からはかけ離れた面が見受けられる。しかし、そういったケースはあくまで少数であり、大多数は何気ない「日常」の中で生活していた。ヒカリもまた最前線に立つことなく、日常的な生活を営むことを許された幸運な存在だったといえよう。



通着であるトウジに対し、レイにプリントを届けよう勧めるヒカリ。一編にレイの家を訪れようという思惑は外れたものの、いかに少女らしい気みを見た。



教師ですら放置するという風がしい状況になった教室内で、クラスメイトたちに強く注意を促すヒカリ。ややヒステリックな面もあったが、委員長としての責任感を強く感じさせる行動だった。

経典してきたヒカリなのに学校を休み続けているアスカを気にかけて、彼女の家を訪れるヒカリ。こういった細かい気遣いができる部分からも、委員長向きな人物だといえる。



ヒカリはクラス委員長という、この年齢の少年少女はやりたがらない役割に就いている。しかし、彼女の場合、その役割を面倒だと思っている様子は見受けられず、一部のクラスメイトに煙たがられるも、意志を曲げることなく責務をまっとうしている。

例えばある日の授業中、シンジがEVA初号機に搭乗していることが判明し、教室中が騒然となった。このときも、ヒカリは真面目に授業に集中し、クラスメイトに注意を促した。その行動から、彼女の真面目な性格が顕著に窺える。それは「委員長」という任に必要な性質であり、彼女は真事にその立場に適合する少女だったといえよう。

委員長

という役割

家庭

が与える影響



料理をするため、台所に立つヒカリ。手振いをする姉妹の家は見受けられないが、そのことに不平を漏らす様子はない。

3人姉妹のうちの次女という存在は、姉の行動を知識として取り入れ、それをもとに妹に対して実践ができるという位置にあり、一般的にしっかりと人間に育ちやすいと考えられる。どうやらヒカリもその例に漏れないようで、彼女は家庭においては母親代わりといつていい役割を務めている。

自分ひとりが家事をしていることに対し、不平を漏らすことも見受けられないため、家事自体が好きなのかもしれない。しかし、それでも14歳の少女がひとつの家庭の家事をすべて受け持つということは、決して容易ではない。これはひとえに、ヒカリが家族を想っているがゆえの行動だろう。

鈴原トウジとの関係



→ 一目で指差されないせいか、制服ではなく黒のジャージ姿で登校することも多い。学校指定のジャージが定かでないが、少なくともほかの生徒が着用している姿は見受けられない。

→ 一目で表情を見せることが多いトウジ。ただ、このようにやや顔を赤く、照れたような表情を浮かべることは珍しい。

ヒカリと同じ第3新東京市立第中学校2年A組に所属し、EVA3号機の操縦適格者として選出されたフォースチルドレン、鈴原トウジ。彼は、ヒカリが密かに想いを寄せる相手だった。親友であるアスカに「トウジのどこがいいのか」と訊ねられたとき、ヒカリは「優しいところ」と答えている。普段はぶざざとばかりいえるトウジだが、その実、妹想いであったり、友人想いであったりと、隠れた優しさを持つ少年である。長い間トウジを見続けてきたヒカリは、それを見抜いたのだろう。

普段はあまり素直になることができず、トウジに対して文句を言っばかりいえるヒカリ。だが、あるとき彼女は、思い切ってトウジにお弁当を作ってくれることを提案する。少しでも想いを伝えようとした、精一杯の行動。しかし、トウジがこと恋愛沙汰に関しては鈍感であったため、また、彼がフォースチルドレンに選出された時期と重なってしまったがために、誰が見ても容易に看破できるほどのヒカリの恋心に、彼が気付いたかどうかは定かではない。



お弁当を作る、とはっきり申し出ることはできなかったが、しかし、トウジの反応により、何とか作ってくれる約束を取り付けることができた。



心情を吐露するアスカに対し、親友として、ヒカリは優しい言葉がかけられる。しかし、その言葉もアスカの心を開くには至らなかった。

その生真面目さゆえに、男子に降られることが多いヒカリ。だが、女子には概ね好意的に受け入れられているようで、クラスの女友達と一緒にいる場面も多く見受けられる。特に惣流・アスカ・ラングレーとは仲が良く、恋愛相談を持ちかけたこともある。ヒカリがそういった相談を持ちかけるということは、かなりの信頼を寄せていることの証といえよう。一方のアスカも、自暴自棄になった際にヒカリの家に転がり込んでいる。心を閉ざしたアスカにとって、ヒカリはわずかなりとも心を開くことができる存在だったのだ。これらのことから、ふたりがお互いを大切な友人として認識していると思受けられる。

級友たちとの関係

特記事項

手作りのお弁当へのこだわり

昼食をパンなどで済ませる生徒も多い中、ヒカリは必ずお弁当を用意していたようだ。それも一人分ではなく、姉妹の分もすべて受け持っていたようで、それがトウジにお弁当を作る申し出をするとき、口実にもなった。

ちなみにヒカリがお弁当を作る際には、雑誌なども参考にしていただろう。ただ、トウジにお弁当を作ることが決まってから用意したのか、それともともと好んで雑誌を購入していたのかは不明である。

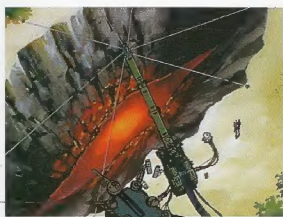
なお、トウジのためのお弁当は男女差を考慮してか、それとも愛情ゆえか、自分のものよりひとまわり大きいものを用意していた。しかし、結果的にそのお弁当をトウジが食べることは一度もなかった。



トウジのお弁当を用意してきた初日の昼休みは、トウジとレイが壁上で話しているのを見、心を痛めたヒカリが泣きながら帰ってしまいました。お弁当に添えられた手作りお弁当袋です。



お弁当協力特集の料理雑誌「レモングラフ」を参考にしたヒカリ。これ以前にお弁当の準備をしていたときに「食の手作りお弁当」という本を所有していたことが確認されている。



14式大型架橋自走車

EVAの運用を支える 巨大な架橋車両



NERV

Bridgelaye 2014Type

車などが通行できない場所（河川など）へ橋を設置するために用いられる特殊車両を架橋車という。

古来より橋を渡る用途として攻城戦などに使用されており、中にはバレンタイン架橋車のように、砲台を撤去して渡河板を装備した戦車のバリエーションも存在するほど。このように、道なき道を進む場合が多い軍隊にとって、不整地機動性を持つ戦闘車両と渡河設備を有する架橋車は必須の装備である。

NERVの使用している架橋車は超大型であり、自重を支えるために大小2組の無限軌道を装備。さらに長大なブームを支えるため、左右2組のアウトリガー（車体安定のため横に張り出して稼げる装置）のほか、クレーン状のブームの先端から超硬ワイヤーが7本伸び、各ワイヤーは巨大な金属杭によって本体を固定しているため、抜群の安定性を誇る。

なお、14式という型式から、この車体は2014年に制式採用されたモデルだと考えられよう。



第13号機「バレンタイン架橋車」のバリエーションとして登場した。

第13号機「バレンタイン架橋車」のバリエーションとして登場した。

構造と運用

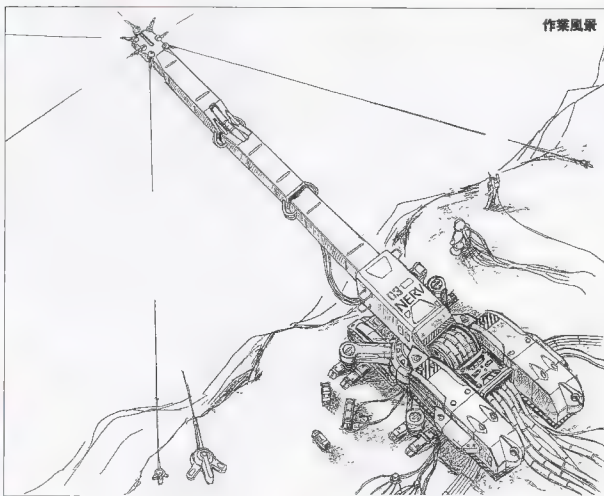
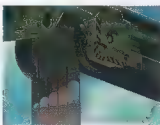
軍隊などが配備している装甲架橋車の数十倍の巨体を持つことから、本来は大規模な建築（それこそ地下空洞であるジオフロントの建築）に用いられるものであろう。それを、火口へのダイブが必要な使徒捕獲作戦遂行のために利用したと見られる。

ブーム下部には移動式レールを持ち、架橋よりもクレーンとしての運用に向く。なお、コントロールは14式大型移動指揮車から行なわれている。



レーザを撃ち込むことで火口のマグマに穴を開け、式号機の進路を確保した。このように、ブームのレール部分には多形ジオフロントを破壊可能と思われ、用途に合わせて幅広く用いられているのだろう。

クレーンブームから伸びる5本の冷却循環パイプは、ファイライナーケーブルでもある。マグマの中でも耐え得る強度を持つが、第8使徒サンダルフーンによって4本ずつとめて5本に減らされてしまう。



追加報告

浅間山地震観測研究所が所有する無人観測機

航空機搭載型の空中赤外線映像装置での観測では使徒がどうも判別できなかったため、無人観測機が用いられた。これは高温高压のマグマ内を調査可能なもので、ウェッジローラーの回転機構により潜行する。基城ミサドが火口内の跡の調査するために訪れた際に回収された。深さ660mを越えたところで研究所の所員が限界を訴えるも、ミサドはさらに潜行させる。そして深さ1200mで耐圧隔壁に電撃発生、深さ1300m付近で調査対象の影を発見した。

調査を容易にした深さで用いられた無人観測機。通常の調査NERVで作業するよりも調査する深さが浅いため、この機種の耐圧隔壁に圧壊してしまっている。

↓無人観測機

↓潜行時とウェッジローラー



- 浅間山地震観測研究所
- 局地戦用EVA-D型装備
- A-17
- 第8使徒サンダルフーン
- 14式大型移動指揮車



火口内に跡の影が観測されたことにより、ミサドは作戦態勢が変更された。深度が確認されたことで発見が開始されてしまった。

特記事項

A-17と局地戦用EVA-D型装備

A-17の発令により、使徒の捕獲を最優先事項と位置づけられたNERV。局地戦用D型装備を用いて、使徒の浅間山火口内へと打って出る。なお、この発令は「調査態勢の凍結」が含まれており、政府の要人の警戒を示したことから、セカンドインパクト級の災害を想定した政府の国家管理(世界共有化)と考えられる。



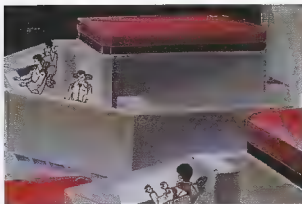
無人観測機が壊れた羽化後の使徒。生きた使徒のサンプルを待てるためA-17が発令し、NERV隊の機動隊に出発の命令。

←局地戦用EVA-D型装備



一形態、制圧、特殊性能を持つEVAの特殊兵隊。現定ではあるものの理論的には使徒であり、使徒との戦績には向う。

使徒殲滅に助力する 情報処理 のエキスパート



NERV 男性オペレーター

MALE OPERATORS OF NERV

使徒殲滅を主な任務とする、国連直属の特務機関 NERV。その本部において事実上の「本営」となる中央作戦司令室には、常に膨大な情報を処理して作戦遂行をサポートする頼もしいオペレーターたちの姿があった。NERV 本部に在籍しているオペレーターのうち、男性はさほど多くなく、中央作戦司令室での業務をメインとする者がほとんどだったと言われている。

なお、人類補完計画を巡るゼーレと碇ゲンドウの対立後、彼らの一部は果敢にもNERV本部内に突入してきた戦略自衛隊に迎撃する構えを見せた。しかし、装備、経験に劣る彼らが勝機を見出せるはずもなく、そのほとんどはなす術なく命を落とすこととなった。

男性オペレーターは中央作戦司令室・アンダフロア、副発令所やMAGI周辺で確認できる。

オペレーターの実務において性別的な差異は認められないものの、実際には男性と女性の間いくつかの相違が見受けられる。ひとつは、迎撃などの特殊な作戦において、男性が帯同するケースが稀である点。本部中央作戦司令部作戦局第一課に所属する日向マコについては、あくまで例外と考えるのが妥当と思われる。もうひとつは、女性陣は20~30代前半といった人材が多い点に対し、男性陣は20~40代後半までの幅広い層で構成されている点である。これらの相違は意図的なものとも考えられるが、その狙いは定かではない。ただ、NERV本部がすべての使徒殲滅に成功したという事実のみを見る限り、その狙いは成功したと見て差し支えないだろう。



中央作戦司令室の司令室には、最高司令官ゲンドウが主要メンバーによるブリーフィング、オペレーターの中には、こういった重要な場に参加する者もいたようだ。

追加報告

男性オペレーターの所属部署

NERV本部中央作戦司令部付のオペレーターである営業シグナルと、中央作戦司令部作戦局第一課に所属する日向マコ。ふたりは共に、司令室オペレーターとして指定座席を持っている。このふたりの大きな相違点は、「指定座席以外の作業経験」の有無である。

男性オペレーターは、その大半が職業と同じように「指定座席以外での作業経験」が認められない人員である。オペレーターは各配属部署から中央作戦司令部に召集されているとも考えられているが、司令部にいる男性オペレーターについては、ほぼすべての人員が本部中央作戦司令部付である可能性も考えられる。



常に司令室やオペレーター席にいる営業。座席の上にはNERV前司令室の冬月コウジとも名が表れているが、その真相は謎かけである。



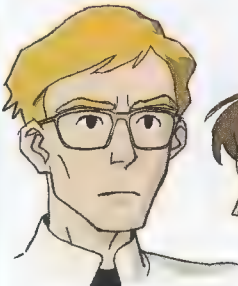
MAGIの実験、多岐にわたる男性オペレーターたち。彼らについては、リソコと同じ技術開発部技術局の人員とも考えられる。

- 営業シグナル
- 日向マコ
- NERV



NERV本部中央作戦司令部付のオペレーターで、司令室オペレーター兼での業務もメインとする人員。通信、情報分析担当。

男性オペレーターたち



↑男性オペレーターの中には、眼鏡をかけた人員も見受けられる。ただ、オペレーターに限らず、NERV全体においても着用者は少数派に属する。



↑主に中央作戦司令部のMAGI周辺、副発令所で端末操作を務める男性オペレーターたち。部署は定かではないが、営業やマコ以外にも、複数の人員が活躍している。



↑20代とおぼしき人員で構成された女性陣とは異なり、男性オペレーターの中には30代以上の人員の姿も見受けられる。これらの人員が、オペレーターたちを取りまとめているものと見られる。



↑比較的若年層の人員が多いNERVだが、男性オペレーターの中には、僅く見積もっても40代といった風貌の人員も。年代的にバラエティに富んだ構成となっている。



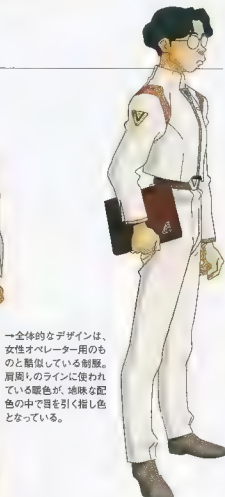
制服



本部中央作戦司令部付の営業と、本部中央作戦司令部作戦局第一課の日向。ふたりを見てわかる通り、制服は配属部署に関らず共通のもののように。



↑オペレーターの制服は、細身のスラックスと短く短い上着の組み合わせ。着る者を選ぶフルットの制服ではあるが、この制服にそぐわない体型の人員は見受けられない。



↑全体的なデザインは、女性オペレーター用のもものと類似しているが、肩周りのラインに縫われている藍色が、地味な配色の中で目を引く指し色となっている。

A.D.2015

●第3新東京市

01

ミサト、使徒の能力を測定する

使徒の能力を推定したミサトの決断

正八面体のような形状をした第5使徒は、NERV本部を目指して満州を経ていた。使徒の能力を測定するために、ミサトは初号機の等身大バルーン・ダミーや強12式自走白砲によるアプローチを試みる。その結果、ダミーは武器を備える仕草をしたとたんに加粒子砲による攻撃を受け、自走白砲は砲撃を放った直後、粉々に粉砕された。一部始終をモニターで見ていたミサトは、「なるほどね」と感心したようにつぶやいた。



使徒の近くには設置された初号機の等身大バルーン・ダミーは、鋭く突き刺さった後に破壊されてしまった。



強12式自走白砲



続いて行った強12式自走白砲による遠距離攻撃は、使徒の展開したA.T.フィールドによって阻まれ、自走白砲自体も加粒子砲で破壊されてしまう。一連の動きをつぶさに観察したミサトはある結論に達していた。

A.D.2015

●日本

04

日本中の電力の集中が進む

日本中の電力が箱根に集中していく

観自研から徴収された融電子砲はボジトロン素子パイプラインに改造されることとなった。残る問題は電力の確保である。使徒のA.T.フィールドを貫くには、最低でも1億8千万キロワットのエネルギーが必要とされたのだ。「それだけの大量電力をどこから集めてくるんですか?」日向の疑問にミサトは「決まってるじゃない、日本中よ」と微笑む。国内の発電所から電力をかき集め、使徒撃破のエネルギーにするというのが彼女の思惑だった。



作戦開始に向けて着々と準備が進み、老練なNERV Aにエネルギーを送るための送電システムが構築されてきた。



第3新東京市



鹿児島県・新枕崎町



鈴原陽子

テレビの臨時ニュースや広域用のヘリコプターが、まもなく全国規模の大停電が起こることを国民に通告する。テレビゲームで遊んでいた鈴原トウジランジのクラスメイトたちもまた、そのニュースを見ていた。

2015年

ミサト、使徒の能力を測定する

使徒の防御力と行動パターンが判明

ミサト、使徒攻略のための作戦を立案

長々距離からの直接射撃をゲントウに上申する

A.D. 2015

NERV本部

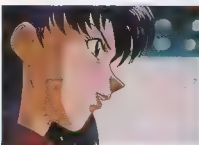
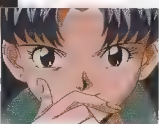
02

ミサト、長距離からの艦橋射撃を上承

ミサト発案の使徒殲滅特殊作戦が提示された分析の結果、使徒は攻撃力、防御力共に優秀な能力を有することがわかった。シールドの本部への予想到達時刻は約10時間後。初号機はパーツを換装中、パイロットのシンジは未だ意識不明。零号機も実戦に耐えるとは思われない。この状況に際してミサトはある作戦をゲンドウに上申する。それは高エネルギーによる長々距離射撃を敢行し、使徒のA.T.フィールドを突破するということだった。



「守衛兵には何いへば。まさに空中要塞ね。少しくない状況に自衛でもおぼえませんか。オペレーターの意向に、「その前にちよっち、やってみたいことがあるの」とミサトは不機嫌な笑みで応えた。



作戦成功後は87アプが現状ではこれこそ善悪も感取者の高い作戦だとミサトは言い切った。



「反対する理由はない。やりよめ入る。乗っ取った。補助パイロットの承認を要する。作戦が開始する。」

A.D. 2015

つくば

U

ミサト、戦自研の試作自走陽電子砲を徹究

実行許可は出たものの、使徒のA.T.フィールドを破るには極めて高レベルのエネルギーが必要である。「うちのポジットロライフルじゃそんな大出力に耐えられないわよ。どうするん」と問うリツコ。それに対するミサトの答えは、戦自研から自走陽電子砲の試作機を借りるということだった。



炭発令状

「炭発令状は、使徒のA.T.フィールドを破るのに必要です。高エネルギーが必要で、高レベルのエネルギーが必要です。高レベルのエネルギーが必要です。」



「借りる戦自研の面々にミサトは炭発令状を突きつけた。」

「レイ、持っていて、ミサトの声と共に、天井を引き崩して零号機が現れた。」

A.D. 2015

NERV内病院

05

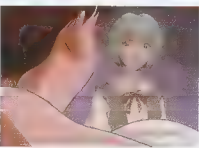
シンジ、作戦要綱を告げられる

恐れるシンジをレイは静かに突き放した

使徒の攻撃によって重体になっていたシンジが意識を回復した。病室を訪れた綾波レイは、彼の枕元で作戦のスケジュールを淡々と読み上げ始める。だが喪死の目に遭ったばかりのシンジは再びEVAに乗ることにおびえていた。あんな思いはしたくない――頭蓋を吐いたシンジに、それなら寝ていればいいと冷たく応えるレイ。部屋を出て行く彼女の後ろ姿を、シンジは呆然としたように見送るのだった。



意識を回復したばかりのシンジに、レイは新たな作戦を伝えた。「行くは……いやだ。綾波は必ずあれに乗って新しい目にあったことがないから、そんなことが言えるんだ。シンジはひどく怯えてたんだ。言葉を吐く。」



「レイは『愛でた』レイはシンジを自分かのように思っている。初号機には自分かのように思っている。」



レイの言葉は目に届くがシンジは彼女の言葉も聞き取らな。レイは言葉を吐いた。」

A.D. 2015

二子山

06

ヤシマ作戦、発動

今日の長々距離狙撃作戦は「ヤシマ作戦」と名づけられた。狙撃位置は二子山山頂。開始時刻は午前零時。「これで死ぬかもしれない」史衣室でブラクスーツに着替えるながらもまだうしろ向きなことを言うシンジに、レイは淡々と答える。「あなたは何も死なないわ……私が守るもの。」



出撃するEVA。レイには防衛の役割が与えられた。



あまでもネガティブなシンジとは対照的に、レイは秘社なまでの決意を固めていた。

ヤシマ作戦、発動

ミサト、今回の作戦を「ヤシマ作戦」と命名

レイから作戦要綱を告げられる

シンジ、NERV内病院で意識を取り戻す

日本国内の電力の集中が進む

ミサト、戦自研から自走陽電子砲を徹究

作戦準備が開始される

ゲンドウ、ミサトの作戦を了承

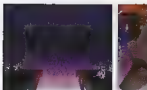
A.D.2015

07 シンジ、作戦直前のレイと話す

レイがEVAに乗る訳をシンジは理解できない。作戦開始時刻を待ちながら、シンジとレイは静かに言葉を交わしていた。「綾波は、なぜこれに乗るの?」シンジの問いかけに少し考え込んだレイは、それがみんなとの絆だからと答える。「強いんだな……綾波は!」そんなシンジのつぶやきに返ってきたのは「私には、何もないもの」という言葉だった。空虚なレイの言いようにとまどうシンジに、レイは短い別れの言葉を告げたのだ。「じゃ、さよなら」



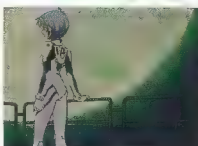
レイが「私には、何もないもの」という言葉を言った。シンジはそれを受け取ることができなかった。



EVAに乗る理由を尋ねたシンジにレイは「絆だから」とボソリと漏らした。「そのほか自分は何も持たないのだと。」



「私には何もないもの……それが私なんだ。みんなの絆だから乗る。それが私の強さだ。」



「さよなら、シンジ。みんなの絆を思い出して、頑張れ。」

08 ボジトロンスナイパーライフルへの電力供給が開始

午前零時。いよいよヤシマ作戦が開始される時刻である。「シンジくん。日本中のエネルギー、あなたに預けるわ!」ミサトの号令に応えて、日本全国から集められた大量の電力が二子山の臨時変電所を経由し、初号機のボジトロンスナイパーライフルへと集中していく。



電圧車や変圧器が地りを行い、電力が集中していく。



ミサトはリツコと共に14式大型移動指揮車の中で作戦の指揮を執っていた。

A.D.2015

11 零号機、初号機を防御する

使徒から2度目の加粒子砲がほとばしった。光の束が空を裂き、一直線に初号機へと向かっていく。だが直撃するかと思われた寸前、零号機が初号機の前に立ち上がった。超電磁コーティングされた象造の強化層を前面にかざし、懸命に初号機を守る零号機。しかし強大なエネルギーを受け止めきれず、盾はみるみるうちに溶解をはじめた。



1層も失っても零号機は初号機を守り続けようとした。

「私が守ると、どの言葉どおりに、レイは身を挺してまで初号機を守ろうとした。」

12 初号機、使徒殲滅に成功

初号機の第2射が使徒のコアを貫いた

加粒子砲の直撃を受けて溶けていく盾と零号機。「盾がもたない!」まだなの?」焦りに満ちた声が指揮車を飛び交う。第2射のエネルギーが充填するまで、あと10秒。「早く!……早く!」シンジは歯を食いしばってモニターを覗きつけた。そしてジリジリとした時間が過ぎ去り、ついにシンジは引き金を引いた。その後、ワイフルから発射された超電子の赤流は使徒のO.A.T.フィールドを破り、使徒自体をも貫いたのだ。



「出た!」初号機は引き金を引いた。



零号機の盾は使徒の加粒子砲に耐えて17秒しかもちがなかった。職員たちは焦りに、次にモーターを見上げた。



ついにエネルギーが再充填された。使徒は「もういい!」と叫び、同時にシンジは「もういい!」と叫び、同時に使徒の盾が落ちていく。



使徒の「もういい!」と叫び、同時にシンジは「もういい!」と叫び、同時に使徒の盾が落ちていく。

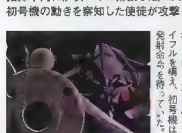
2015年

- ボジトロンスナイパーライフルの改修作業が終了
- 日本国内の全電力が二子山に集中する
- EVA初号機と零号機、二子山に移動
- シンジ、作戦直前のレイと話す
- ボジトロンスナイパーライフルへの電力供給が開始
- 初号機、攻撃態勢に入る
- 零号機、初号機のバックアップに回る
- 初号機、攻撃態勢に入る

●二子山

09 初号機、第1射

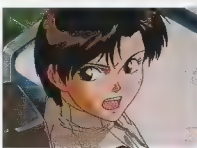
初号機の攻撃に対して、使徒も加粒子砲で応戦する。ゴジトロンスナイパーライフルへのエネルギー充填が完了となる寸前、指揮室内に伊吹マヤの緊張した声があった。「目標に高エネルギー反応!」



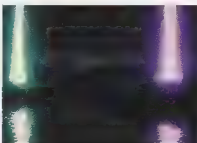
エネルギー充填されたゴジトロンスナイパーライフルを初号機は再装填する。



●急造EVA用の装備として改造された自走型電子銃。銃身の上で設置されているのは急造の大型冷却システムである。



使徒が攻撃態勢に入りつつあることを察するマヤ。その直後、ミミは加粒子砲を撃つ。



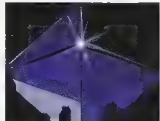
初号機と使徒の攻撃は絶妙に合った。外れに交差し、互いに目標から外れたい。

10 使徒内部に再び高エネルギー反応を確認

初号機の第1射が外れた直後、ついに使徒のシールドがジオフロント内部に侵入してしまった。初号機はただちに第2次射撃の準備を開始するが、使徒もまた、新たな攻撃を放つためのエネルギーを内部に集中させはじめる。もはや一刻の猶予もない。手に汗を握る数瞬が過ぎ去り、先に攻撃準備が整ったのは使徒のほうだった。



隔壁を突破し、地下空間に到達したシールド。ミサトは直ちに第2射撃準備の指示を出す。

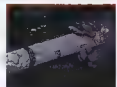


エネルギー充填しかなりの時間を必要とする初号機に対し、使徒は瞬く間に発射準備を整えていた。

●二子山

13 シンジ、零号機に駆け寄る

戦果を確かめるのもそこそこに、シンジは零号機へ走り寄った。加粒子砲の直撃にさらされた零号機の装甲はドロドロに溶けかけている。シンジはエントリープラグを強制射出させると、ハッチをムリヤリとこじ開けた。高熱をはらんだレバーを強引に回す手元から煙が吹き上がる。やっとなだり口から、シンジは内部を覗き込んだ。



零号機の高熱に耐えたゴジトロンと同じように、シンジは必死の形相でエントリープラグの中に首を入れた。

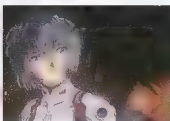
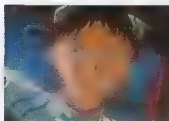
14 シンジ、レイの無事を確認

レイはシンジにゲンドウの面影を見る

プラグ内で座席に身を投げ出したレイは身じろぎもしない。「大丈夫か、綾波!」シンジの必死の声にレイのまぶたが上がる。無事を知ったシンジは安堵に目を潤ませた。「自分にはほかに何もないうて……そんなこと言うなよ。別れ期にさよならなんて、悲しいこと言うなよ!」涙をこぼすシンジを、不思議そうに見つめるレイ。「ごめんない。こういうとき、どんな顔すればいいのかわからない。困ったようなその言葉に、「笑えばいいと思うよ」と微笑むシンジ。そのとき彼女の胸中で、なにが動いたのか。レイはシンジを見つめると、ゆっくと微笑んだのだった。



シンジに笑えばいいと言っただけで、まぶたの奥に涙が溜まっていた。シンジは涙を拭きながら、レイの無事を確認する。



高熱にさらされた零号機の中でレイが生きてくれたことに、シンジは心のままに涙を流す。その涙は、なぜかレイの心を揺さぶった。



ほんのわずかに微笑みを見せたレイは、ただなだり口から涙が流れて、心は揺さぶられていた。

シンジ、レイの無事を確認する

シンジ、零号機に駆け寄る

使徒の殲滅に成功

初号機、第2射

零号機、初号機を防御する

使徒、加粒子砲を発射

使徒内部に再び高エネルギー反応を確認

使徒の加粒子砲の影響で命中せず

初号機、第1射

浅間山のマグマの中で発見された謎の物体は、弱化する敵の使徒と断定された。活動を開始する前の使徒に対し、NERVは捕獲作戦を展開した。しかし、それはサードインバクトの発生の可能性も内包した極めて危険な作戦であった。

「待ち」の攻撃と、使徒の生体サンプル入手の困難

人類の未来を秤に掛けた、使徒捕獲作戦

TACTICS SHEET

エヴァンゲリオンと第3新東京市が、使徒を迎撃するためのシステムであることは、これまでに何度も述べた。これは、使徒の特性 出現する地点や周期が把握されていない のため、攻勢に出られなかったことが要因と考えられる。例外として、第5使徒ラミエルに対する長々距離からの狙撃が挙げられる。しかし、これも第5使徒が第3新東京市の上空を占位したために行なわれたもので、厳密には攻勢といえる行動ではない。このようにNERVは使徒に対し、防戦に近い戦術を採らざるを得なかったのである。NERVの基本戦術は「待ち」であったが、たった一度だけ攻勢に出ることがあった。それが、第8使徒サンダルフォンに対して行なった「使徒捕獲作戦」である。

浅間山に設置された浅間山地震観測研究所は、火口内部で謎の物体を発見した。研究所からの通

知を受けたNERVは、葛城一尉と日向二尉を現地へと派遣。観測の結果、謎の物体を使徒と断定すると、葛城一尉は「A-17」の発令を碓司令に要請した。「A-17」とは、使徒の捕獲を最優先にした作戦コードであるとされる。また、これには「現資産の凍結」も含むと言われるが、その詳細については知られていない。要請を受けた碓司令は、人類補完委員会のメンバーと会見している。しかし、使徒への不用意な接触はサードインバクトを引き起こす可能性があると考えられたため、人類補完委員会はその危険性を理由にA-17の承認を見送ろうとした。しかし、碓司令は「使徒の生体サンプル入手の唯一のチャンス」を理由にA-17を承認させている。こうして極めて高度な政治的決定を受け、A-17は発令されることとなった。

A-17の発令によって、NERVでは葛城一尉と赤木リツコ博士が中心となって作戦を立案。さらにマグマの内部という、第6使徒との戦闘以上に特殊な環境で作戦を実施するために特別な装備が用意さ

れた。その特殊装備とは、高熱、高圧環境下でEVAを運用するための「D型装置」である。セカンドチルドレン、惣流・アスカ・ラングレーの志願により、EVA 式号機が使徒の捕獲に当たることとなった。A-17の発令からわずかな期間で準備された作戦と装備を浅間山に運び込んだNERVは、遂に「使徒捕獲作戦」を実施した。

この「使徒の捕獲」という作戦は、使徒という存在を知るため、そして、今後の対使徒戦略を構築する上で極めて重大なものであった。人類初の使徒への攻勢は、使徒の生体サンプルの入手と、サードインバクトの可能性を秤に掛けた、極めて危険な作戦として行なわれたのである。

RELATED MATTERS

- 第8使徒サンダルフォン
- 浅間山観測用EVA-D型装置
- 使徒
- 人類補完委員会
- 浅間山地震観測研究所



マグマの中で弱化する使徒に発見された使徒。高圧、高温環境下に対処した生体を持つ。

使徒の捕獲準備と、想定外の出来事

浅間山に隣接したNERVIは、使徒を捕獲するためにEVA式号機を火口内へと降ろさせた。限界深度を超過し、ようやく使徒を発見、捕獲を開始するが……

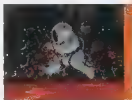
火口内への侵入と使徒の捕獲

ACTICS 9-LET



1 EVA式号機、火口内へ侵入

NERVIは使徒捕獲の準備を完了。セカンドナドルンと、セカンドナドルンの志願と機体の特性上、式号機がD型装備を装着し(EVAのうち、零号機はこれを装着不可能であった)、火口へと降下を開始した。不測の事態に備え、EVA初号機が地上からバックアップにあたった。

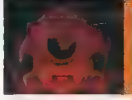


EVA式号機は「ジアン・ストロンク・エンリ」でマグマ内へと降下を開始した。



2 視界ゼロでの捜索

EVA式号機は使徒との邂逅予定深度である深さ1300mまで達するが、この地点では使徒を発見できなかった。そのため、指揮車の警戒一層はさかざる降下を指示。EVA式号機は降下を続けるが、限界深度を120mを超えた地点でプログレッシブ・ナイフを喪失した。



限界深度を超過しての降下では、特殊装備を喪失したEVAであった。作戦の危険性があった。



3 使徒の発見と捕獲

降下を続けるEVAは、修正予定地点として設定された深さ1780mで羽化する前の使徒を発見し、対峙の間隙で捕獲のチャンスはわずかにのみであった。接近する使徒に対し、EVA式号機はキャッチャーを展開、捕獲に成功した。



「使徒の捕獲」という重要な任務を果したことで、現場の緊張も高まった。



4 使徒、羽化を開始

使徒の捕獲後、浮上途中で突如、使徒が羽化を開始した。使徒はキャッチャーを破壊すると、EVA式号機へと攻撃を行なった。この事態に対し、指揮車の警戒一層は作戦を使徒の捕獲から撤収へと変更した。



行動が極度に制限される環境下で、EVA式号機は1/3の損傷を受けて、使徒の攻撃を回避した。

極限環境下での戦闘

NERVIは使徒の捕獲を狙うが、マグマの内部で特別な環境はEVA式号機の行動を著しく制限した。特殊環境下に適応した使徒の機体のため、EVA式号機は苦戦を強いられることとなった。

高温、高圧環境下での戦闘



5 EVA初号機、プログレッシブ・ナイフを投下

EVA式号機は使徒と戦闘を行なおうとするが、プログレッシブ・ナイフを失っていたため、有効な攻撃手段を持たなかった。そのため、EVA初号機は自機の後背するプログレッシブ・ナイフをマグマの内部へと投げ入れた。



使徒はマグマ内でも行動を制限されることはなく、EVA式号機の得知範囲外へと逃れた。



6 EVA式号機、使徒と接触

EVA式号機は、プログレッシブ・ナイフをキャッチ、使徒に攻撃を行なった。しかし、高温、高圧下に適応した使徒は効果はなく、EVA式号機は頭部に傷付かされた。さらに左腕の損傷の耐熱処理を行なうため、膝から下を切断、閉鎖した。



マグマ内では、あらゆる能力で使徒が勝っている。現時点でEVA式号機に勝機はなかった。



7 使徒に対する唯一の攻撃法

EVA操縦者は、使徒に対して「熱影響」を利用した攻撃法をいくつ。そこでEVA式号機は、左腕の冷却液循環パイプを使徒の口におよぼし冷却液を注入。熱影響により使徒の硬度に変化が生じたところを思い、プログレッシブ・ナイフで攻撃、殲滅した。

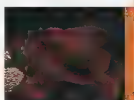


事前と想定通りであったが、特殊環境下にある使徒に対しては有効な手段であった。



8 EVA式号機、マグマ内から脱出

撃破される直前の使徒の攻撃により、機体採用用のケーブルを兼ねた冷却液循環パイプがダメージを受けていた。EVA式号機の重量にケーブルは断絶し、同機は沈没を開始。機体の圧縮は時間の問題だったが、EVA初号機によって、EVA式号機は救助された。



ようやく使徒を撃破するが、特殊環境下にある使徒の危機にさらされることになった。

特記事項

「A-17」発令に伴う動揺と懸念

使徒の捕獲などを含む「A-17」の発令は各方面に大きな波紋を投げかけた。使徒の捕獲はサードポイントを引き起こす危険性を孕んでいたため、中にはA-17の発令自体に疑問を投げかける声もあった。こうした声は特に人類補完委員会のメンバーに多かったが、被司令官自らも懸念を抱き、A-17の発令を正式なものとした。



一使徒の捕獲を認め司令官の申し出を受け入れたA-17の補強。



A-17の発令は、通常国連「NERVI本部」に伝えられた。



羽化する前の使徒であれば、捕獲・回収が可能と考えられた。

作戦報告

攻勢時における課題と運用上の問題

今回の作戦はマグマの内部で実施するつもり。第6使徒との戦いにおいて特殊な環境下で行なわれた。確かにそのための装備も用意されていたが、捕獲失敗時には「使徒の

① 特殊装備装着時の運用性

高温・高圧環境下で運用するためのD型装備だったが、装着した場合、EVA本来の運用性が大きく損なわれてしまう。

② 特殊作戦時のバックアップ体制

使徒捕獲作戦では、EVA初号機がバックアップを行なった。しかし、これも完全ではなく、埋めて限定されたものであった。作戦失敗時には、国連軍が空襲を行なう予定だった。

インストールシート Installation Sheet

ゼーレ

Sheet

06

SEELE

Illustration by Sng Jms

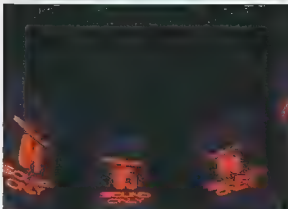
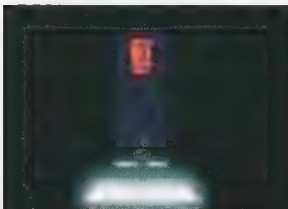
ゼーレ

組織の発足とその概要

欧州の地に、独自の視点から神と人類の関係を
見直そうとした組織が存在した。ともすれば「神」と
いう存在の否定とも受け取られかねない教義内容の
ために、異端視され、闇に身を隠すこととなった組
織——それが秘密結社ゼーレである。多大な経済
的、社会的影響力を有しながら闇に生きることを強
いられたゼーレは、その長い歴史を覆し、自らの教
義を証明するに足る事柄を探し求めた。そして彼ら
は、既存のどの文明が用いたものとも一致しない謎
の文字で書かれた古文書「裏死海文書」を入手する。

そこに記された文書の解読を進め、その荒唐無稽
な内容を逐一検証していったゼーレ。彼らはその過
程において様々な遺跡を発掘し、貴重な遺物を収
集していった。古文書を秘匿し、独自の情報を入手
し続けていったゼーレは、依然として公の場に姿
を現わすことはなかった。しかし、その影響力は次第
に世界規模の基大なものとなっていく。

そうして2015年に至り、磐石の体制を築くことに
成功したゼーレ。さらに「裏死海文書」の解読を進め
ていた彼らに、決定的な転機が訪れる。同書によっ
て予言されていた使徒継承が、現実のものとなった
のである——。ここに至り「裏死海文書」の記述が
絶対的なものと確信したゼーレは、秘密裏に進めて
いた、神と人類の関係を見直そうとする計画「人類
補完計画」の遂行に本腰を入れることとなる。



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

- キール・ローレンツ
- 裏死海文書
- 人類補完計画



多大な影響力を有す
る、ゼーレ会長のメン
バー。最上層の彼は
日知の隠微であるが、
その関係の詳細は明
らかではない。



人類補完計画進行下における ゼーレとNERV

秘密結社ゼーレの真の目的とされる、人類補完計画の完成。そのシナリオは、NERV（主に碓ゲンドウ、冬月コウジ）によって進められた。

一部には「人類を完璧な存在にするための計画」とも言われている同計画は、「真死海文書」の記述に基づき、国連の組織である人類補完委員会が指導・監督役を担っていたとされている。しかし、委員会自体は秘密裏にNERVの活動を監視するための偽組織に過ぎず、計画進行についてのやり取りはゼーレとNERV（主にキールとゲンドウ）の間で行われていたと言っても過言ではない。

ただし、人類補完計画の立案者でもシナリオの進行役も担っていたゲンドウには、故意にシナリオの内容を書き換えた（あるいは、別のシナリオをあらかじめ用意していた）節があった。結果的にシナリオの最終段階でそれに気づいたゼーレは、実行役使のNERVを沈黙させ、自らのシナリオ通りに計画を進行させる手番を整えた。

ゼーレの成り立ちと 主な活動

いつの頃から不明とされているが、欧州において秘密結社として誕生したゼーレ。その経済的、社会的影響力は膨然としており、様々な芸術家や冒険家のパトロンとなっていた。しかし、それはあくまで組織の一面であり、彼らが主催を執った活動は、自らの教義を証明するための事象を探し集めることであつた。そして、その活動の中で多種多様な遺物を収集したゼーレは、ついに教義を証明するに足ると考えられた古文書、「真死海文書」を発見した。

既存のどの文明が用いたものとも一致しない文字で書かれていたため、解読には非常に困難を要すると考えられた「真死海文書」。しかし、同書を秘蔵所有したゼーレは、独自に解読を進行。その荒唐無稽とも思える内容を独占、吟味して新たな活動を推し進めていくと同時に、その影響力を様々な方面に拡大させていった。



セカンドインパクトの調査発表の場には、奇きキールの姿が、セカンドインパクト発生については謎が多く、その発生が自然のものかたまたまと考えられていた。

● 主導あるいは関与が認められる出来事

不明	欧州にて誕生
不明	世界各地にて遺物や収集
不明	「真死海文書」の解読を進行
A.D.1999	「真死海文書」の記述を元にして、世界各地にて遺物の発掘
	死海湖底に遺物を発見 (遺物発掘において巨大な発見)
A.D.2000 9 6	死海湖からロンギヌスの槍を回収
A.D.2000 8 12	南極調査隊の一部の人間が帰国 キール・ローレンツ、六分儀ゲンドウ、他数名
A.D.2000 9 13	セカンドインパクト発生
A.D.2001	南極方面の富士山麓地下にて遺物を発見 セカンドインパクトの真相解明のため、南極に第一次南極調査隊が派遣 (碓ゲンドウ、冬月コウジが同行)
A.D.2002	南極の第 2 次調査終了後、国連調査機関「セカンドインパクト調査委員会」が成立 成立趣意を表明(資料集においてゲンドウ、キールの姿が認められる)
A.D.2004	南極に属する人工進化研究所(のらぶゲルン)が設立
A.D.2005	碓ゲンドウ、冬月コウジに「人類研究計画を承認」
A.D.2006	第二次南極計画承認
A.D.2010	特務機関「元(元)ゲルン」発足

使徒襲来以降の ゼーレの活動

セカンドインパクト以降、世界的秩序を守る手となった国連を利用し、さらなる権力を握るゼーレ。第3使徒襲来より、おぼろげながら彼らの目的が明らかになってゆく。

約15年ぶり、使徒が人類の前に姿を現わした2015年。一般的には、世界の中心たる組織は国連であると考えられている情勢の中、ゼーレは暗躍を続けていた。人類補完計画を進行すると、国連直属の特務機関NERV、そのNERVの予算承認書やEVAの出動要請権を持っている人類補完委員会

を国連内の組織として設立させたのである。実質的には、国連の影響を受けない特異な組織体系を確立したゼーレは、使徒襲滅と共に人類補完計画をNERVに進行させた。その結果、すべての使徒を殲滅した後、ついに人類補完計画は最終段階を迎えることとなった。

● NERVとの繋がり

国連直属の特務機関であるNERV。しかしその存在については、国連すらもその影響下に置かれているゼーレの下部組織という色が強い。実質的には「ゼーレによる監視の下、その意思通りにNERVが活動している」と見る向きが正しいと言って差し支えない。

なお、NERV最善司令官である碓ゲンドウは、人類補完計画の実質的な立案者であると言われている。立案者である碓がシナリオの進行役とも務めたことになり、人類補完計画は碓が主導することなく最終段階を迎える。しかし、碓が計画に関与しすぎたことは、結果的にゼーレにとっては大きな誤算となった。



ゲンドウを導くによる人類補完計画を促進すべく、実行役として進められた。その最大の成果の一つとして、碓が自衛隊を動員し、NERV本部の占拠を目論んだ。

/// 追加報告 ///

ゼーレと「真死海文書」

元々は宗教集団を母体としており、独自の秘法から神と人間の関係を再考する存在であるゼーレ。そのための儀式は、祭典として追求されることもあり、その手から溢れ出るべき歴史の間に身を置っていた。そんなゼーレが究極的に何を求めているかは定かではないが、その活動において「指針的な役割を果たしたものが「真死海文書」と呼ばれる古文書である。ゼーレが秘蔵所有しており、様々な遺物の所在が書き記されているとされる同書。その解読を進めたゼーレはA.D.1998年に限り、秘密裏にはあるもの、世界各地の遺跡に「ある」あるいは、影響下に置かれている(他組織)を派遣。本格的な発見に乗り出し、ロンギヌスの槍などの遺物を収集していた。

なお、「真死海文書」中には、使徒の名称や数々が記述されているとも言われている。ただし、同文書の存在は公にはされていないため、その真偽を確かめる術はない。



EVA開発時にこの文書が用いられ、第15使徒を討った後は別に隠されたと思われるロンギヌスの槍の所在も、「真死海文書」に記載されていたものと推察される。

ゼーレ主導による人類補完計画最終段階、「真死海文書」に記述されていたものが発覚されていないが、彼らがかつていなかった文書も発覚されているものの、しかし、真実を解いていく。

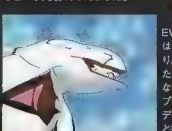


ゼーレ主導による人類補完計画の発動により、身体と心の自己を削ぎ、LCLと充てていくキール。彼には、異色の身体が持つべき異形の形骸が隠された。

特記事項

人類補完計画のシナリオ

ゼーレにより進められているものの、碓ゲンドウにより立案され、彼自身が当たって行っている人類補完計画。人類補完委員会の言葉を借りれば、「使徒を倒すよりも重要な仕事であり、第一の希望」とされる計画だが、その目指すところは、ゼーレとゲンドウの間で大きく異なっていた。ゲンドウのシナリオについては、彼が発見した真実から「不要な者を排除、不要の種をひとつにすること」を推察される。一方、ゼーレのシナリオでは、初号機を依代として生命の樹を出現させ、サードインパクトが発生。後に、一旦「すべての人類の肉体から魂を解放させ、新たな生き体の生命樹として再誕」するという内容だったようだ。



EVA5号機以降の機体はゼーレの所有物となり、総括することになったNERVを襲撃した。なお、使用されたコアコアは、弾力がないため、EVAの機体は破損したと報告されている。



ゼーレの主導による人類補完計画のシナリオでは、EVAの機体は依代として進行することになり、若干の不調はあったようだが、一応の最終段階へと突入した運びとなった。

テクノロジーシート

echnology Sheet

エントリープラグ

Sheet

10

ENTRY PLUG A

Illustration by Takaya Ito

エントリープラグ

ENTRY PLUG

エヴァンゲリオンのコクピットであるエントリープラグを「魂の座」と称したのはEVA零号機パイロットの綾波レイである。使徒との戦闘を想定したEVAの操縦系をこのように呼称するのはいささか奇妙な印象を与えるが、因らざる彼女の言葉は的を射ている。それはEVAが単なる兵器ではなく、ヒトが創り出した「人造人間」であるからだ。

かつて心身二元論（人間は身体と心というふたつの異なる要素から構成されているとする論）を提唱した人々は、心（個人を決定する普遍的要素＝魂）の存在する場所を人間の「胸」と考えた。脳神経科学が発達した現在ならば、人間の個性を決定するのは記憶の蓄積媒体である脳であり、心は脳が生み出した現象と見るだろう。だが人間の解剖学的な内部構造が知られていなかった当時は、脳はさほど重要視されておらず、魂は人間の胸に宿ると考える人々もいた。その根拠となったのが心臓の鼓動だ。生きている（魂のある）人間の心臓は常に鼓動し、死ぬ（魂が失われる）と鼓動も止まる——この明確な繋がりから、魂は胸に宿るといふ説が誕生したのだ。さらに胸の状態は人間の感情に大きく左右されることも一因といえる。「胸がドキドキする」「胸が締め付けられる」などは昂った感情を表現するものだが、感情に同調して心拍数が増加したり、胸が痛くなるのも事実である。そして感情を生じさせるのが魂ならば、その魂が宿る胸に変化が生じるのも当然だと考えられた。こうして魂の座を胸とする考えが生まれ、それは長きに渡って人々に信じられたのである。

EVAの「魂の座」たるエントリープラグはEVAの胴体部分から挿入されるが、挿入後にパイロットが位置するのはEVAの胸付近に該当する。つまり、かつて考えられていた魂の宿る位置にEVAパイロットは座しており、まさしくエントリープラグはEVAの「魂の座」なのである。とはいえ、これについては異なる考え方もある。ヒトの手で生み出されたEVAは身体は有するものの固有の魂を持たず、やむなく外部から魂を封入したというのである。事実、碇シンジは初号機内で何者かの意志を明確に感じ取ったという報告もある。だとすればエントリープラグは「魂の座」というだけではなく、「魂が遷移する場」と見ることもできるのではないだろうか。

RELATED MATTERS

L.C.L.
シンク口車
エヴァンゲリオン
EVAパイロット



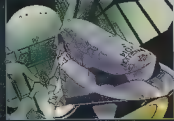
エントリープラグ内を流す液体、腔内腔外を溶かすほどの熱帯を有……L.C.L.を介してパイロット、脳裏が供給される



操縦性と操作性を考慮した新機軸のコントロール

形状と能力

エントリープラグは細長い筒状の形をしており、パイロットはこの内部に入ることになる。そしてプラグをEVAの延縮部分に位置する突入口に挿入することで、起動準備が完了するのである。プラグ内はL.C.L.と呼ばれる液体で満たされ、パイロットは液体に身を浸した状態で操縦を余儀なくされるが、これはパイロットの安全を考慮した処置である。使役との接近戦闘を念頭とするEVAだけに、戦闘ではパイロットに過度の衝撃が加わる恐れがある。だがパイロットをL.C.L.で包んでしまえばほとんどどの衝撃は緩衝され、パイロットに負荷を及ぼす危険がないのだ。さらにL.C.L.にはEVAとパイロットの神経接線が容易にする媒介としての役割もあり、EVAの操縦には欠かせない要素となっている。



エントリープラグの内蔵は複雑なスクリーンで分割されており、パイロットはこのスクリーンに投影された映像を介して外部状況を把握することが出来る。

インテリア

エントリープラグ内にはEVAの操縦を司るコントロール装置が設置されている。インテリアと呼ばれるこの装置はパイロットの操縦席を兼ねており、パイロットはこの部分に適したまま操縦することになる。インテリアには2本のコントロール・レバーが用意され、射撃管制はこの装置を用いるが、機体の微妙な姿勢制御などは神経接線を介して補正されていると思われる。



遠程操縦のコントロール・レバー。グリップ部分は円環状になっており、トリガーなども設置されている。

高機動モードではレバーの基部が持ち上がり共にグリップの一部が展開するため、形状が大きく変化する。

精密射撃時にはシート後部からヘッドセットの一部が持ち上がり、パイロットの頭部を覆う。その内面はモニターがあり、微妙な姿勢修正を行うことが出来る。

各部名称とその機能

初号機/実号機用モデル
 専号機に採用された初期モデルを改良した新タイプ。実体的な形状は変更されているが、パイロットの安全を考慮した改修が各部に施されている。

零号機用モデル
 最初期に製造されたタイプで、これではEVAの操縦に支障はない。空襲対策の要望によって、このモデルの生産は中止されたと思われる。

神経接線用探針
 エントリープラグの先端にある部位は、EVAの中枢神経系に接続するための探針とされており、機能する。この部分を介してパイロットとEVAの神経系の接続が行なわれることになる。

非常用ハッチ
 エントリープラグ前面に設けられた小型ハッチは、非常時には外部から手動で開けることができる。いわば緊急脱出用の装備なのだが、内部からの操作ではできないようだ。

メインハッチ
 メインハッチが大きく開口し、パイロットは操縦席(インテリア)ごと搭乗する。ちなみに初号機/実号機用モデルでは、内部からも操作可能な非常用ハッチが新設されている。

脱出用ロケット
 非常時にEVAからエントリープラグを射出するためのロケットモーター。零号機用モデルは4基だが新モデルは基本増設され、プラグ回転しながら射出されるようになっている。

各部名称とその機能

コントロール・レバー
 パイロットの両脇に設けられており、これを操って機体制御や射撃管制を行なう。通常時のグリップはコンパクトなまじまっているが、緊急時には回りのようにグリップの一部を展開することで、機体を高機動モードに移行させることも可能だ。

ディスクドライブ
 シート後方には巨大なディスクドライブが設置されている。これにはEVAの操縦に関するシステムが保存されているほか、自爆プログラムやダメージシステムも書き込まれており、外部操作で操縦系統をダメージシステムに切り替えることができる。

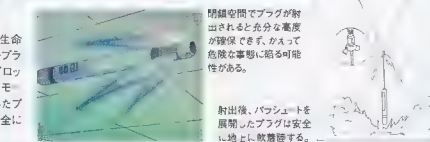
シート
 パイロットが着座する部分で、個々のパイロットの体型にフィットするように設計されている。またエントリープラグは斜め方向に挿入されるため、パイロットはシートに座りながら、半ば上体を起こしたような状態で操縦することになる。

安定用フィン
 エントリープラグの内側に接するよう形状をしており、インテリアはシंकローラに依りてプラグ内を前後するようになっている。

特記事項

緊急脱出機構

何らかの理由でパイロットが生命の危険に晒された時、エントリープラグをEVAから射出することでパイロットの安全を確保する。ロケットモーターに点火してEVAから分離したプラグは、その後パラシュートで安全に着地するようになっている。



緊急脱出機構で射出されたEVAから分離したプラグは安全に地上に着陸する。

エクストラシート

xtra Sheet

ゲノム生物学

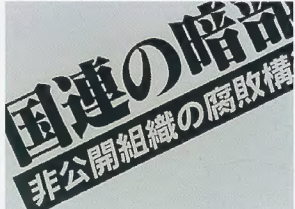
第12使徒レリエルの形成するディラックの海に囚われたEVA初号機。そのとどろきに激して隕隕として碇シンジの内部世界に出てくる新聞（もしくは雑誌）の取出しのひとつ。ゲノム生物学（ゲノミクス、ゲノム科学ともいわれる）とは、ゲノムと遺伝子についてシステムチックに研究する生命科学の一分野で、1990年代のゲノムプロジェクトの開始と共に発展した比較的新しい学問である。なお、これを元にした比較ゲノミクスや機能ゲノミクスなどのプロジェクトがあり、医療の分野をはじめとして、食品や農業など様々な分野へ応用されている。



ところどころ黒く塗りつぶされているため記事の詳細は不明だが、「[脳]の障害」「失踪、脱出、渾身」「[盲腸のもの]等の文字が見られ、ゲノム生物学とは関係のないものであろう。

ゲヒルン

特務機関NERVの前身となる国際連合の非公開調査機関、国際直線の人工進化研究所（AEL: ARTIFICIAL EVOLUTION LABORATORY）を隠れ蓑にして秘密結社ゼレレの下組織で、所長は碇ゲンドウ。碇ユイも所属しており、のちに冬月コソゾも名を連ねる。組織の正式な発足日は不明だが、少なくとも2003年までには発足していたと思われる。本部は箱根地下のジオフロント内に建設され、海外支部としてドイツ第3支部の存在が確認されている。ゲヒルンでは、セカンドインパクトの際に破壊されたアダムとされる存在を人工的に復元させるためのE計画（EVAの建造及びアダム再生計画）を推進するほか、赤木ノコ博士による人格移植OSの第一号、スーパーコンピュータMAGIシステムの理論構築及び開発などを行っていた。また、使徒の殲滅を主要な目的とする軍事組織のNERVと異なり、研究や開発が目的である。スタッフの多くが研究者ということもあるため、職員は多くは白衣を着用している。2010年、MAGIシステムの完成と共に、人類相変委員会によってゲヒルンは即日解体、亡くなった赤木ノコ博士を除く全職員はそのまま特務機関NERVへと移行した。なお、ゲヒルン（Gehim）とは「脳」「脳髄」を意味するドイツ語で、広義だと「頭脳」「知力」の意味も持つ。



碇シンジの内部世界で見られる記事によって、ゲヒルンが世間からどう見られていたかがわかるだろう。

KERMADEC-3

浅間山地震観測研究所が所有する無人観測機の名称。使徒の確認作業のため用いられ、葛城ミサトの要請により安全

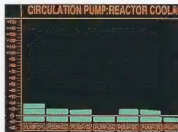
深度をオーバーして使用された結果、破壊してしまう。なお、ニューランド嶺には海底火山の活発なケルマデック諸島がある。無人観測機も参照。



無人観測機から送られる火口内の映像において、同様の名称が見られる。

減速材

J.A.の搭載するリアクターの内圧が上昇した際に、注入しようとしたもの。原子炉内の中性子の速度を核分裂に速したスピードに抑制するための物質で、中性子をあまり吸収しない元素が望ましいとされる。主に水（軽水）、重水、ベリリウム、黒鉛などが使用される。原子炉は減速材の種類により、軽水炉、重水炉、ベリリウム減速炉、黒鉛炉などに種別される。



J.A.に異常が発生した際に輪田シロウが最初に指示したのが減速材の注入だったが、ポンプの出力が上がりすぎたため注入は不可能だった。

ケンタッキー

アイオワ級6番艦で、全長270.6m。艦種記号はBB-66。旧伊東沖における第6使徒が年丸艦において自決した艦艇のうち1号艦。零距離射撃作戦において、もう一方の艦艇エイノイに使徒の口内に突入し自爆した。なお、アメリカ海軍最大の艦艇。ケンタッキーの建造については1942年に起工し、1950年に中止されている。その艦首は、4番艦エイコンスタンが衝突事故を起した際に提供された。



第6使徒との戦闘において、ケンタッキーとエイノイの2隻が生き残っていたおかげで零距離射撃作戦が可能であった。

ゲンドウの眼鏡

零号機の起動実験における事故の際、碇ゲンドウが自らの手で波動レインを救出した際に着用していた眼鏡。実験後はレイが所有している。オート・エージェクシヨンの作動により射出されたエントリープラグに駆け寄り、開閉ハッチを素手

で開けようとしたゲンドウだが、その熱にのけぞった際に落下。高温のG.L.Lに触れられたフレームが歪み、レンズはひびが入った。レイは自らの胸部にコストの上に着座しているが、零号機の再起動実験際にはケースに入れて持参しており、精神の安定期のような役割を果たしているように見える。また、3人目のレイがこの眼鏡を壊そうとしたとき、涙が自然に流れ出ており、感情を誘発させるほどの思いつきの代物だとわかる。しかし、使徒はすべて殲滅したのち、セントラルドグマへと向かうレイは、すでに未練はないかのように自宅へと置き去っている。なお、碇シンジがレイの自宅を訪れた際、彼がこの眼鏡を見つけて着用していた場面なども見られた。その際は珍しくレイが大きな反応を見せ、シンジから眼鏡を取り上げている。



ゲンドウの眼鏡は、無機質なレイの部屋において、たどひとつ人間らしさを感じさせるものだ。

コア

「光球」と称されることもある使徒の弱点。これを完全に破壊することで、使徒は運動を停止する。赤い球体状の姿をしており、使徒の体内もしくは体表に持つ。また、EVAの部位のひとつでもあり、フォースチルドレン選定の際にその準備について語られていることから、操縦者に合わせたコアが必要だと推測できる。碇シンジや惣流・アスカ・ラングレーがEVAの中で母視を感じ取っていることから、コアには連絡者の母の魂（あるいはその一部）が入っているのではと推測されるものの、真相は不明。なお、EVA初号機の胸部に使徒のコアに類似した赤い球体が確認されるが、それがEVAにおけるコアなのかは定かではない。



プロブレッシング・ナイフが貫通しても、即座に停止するわけではなく、しばらくはその機能を維持しているようだ。

来い

第3新東京市に碇シンジを呼ぶため、息子守ての手紙 (10)

書類)の余白にゲンドウが記したひと言。そのほか自分の署名しかなく、ふたりの冷めた関係と、ゲンドウの父親(人間)としての不器用さが垣間見られる。



厳密保持のためか、大半は黒塗りで消されている書類。その余白に、たどいと書だけ書かれている。

コインクリーニング

第3新東京市にあるコインランドリー。クリーニング終了後の衣服は、畳まれてビニール詰めされた状態が出てくるといっ仕様が、これは2015年の標準なのか、第3新東京市だけの仕様なのかは不明。



赤木リツコ、伊吹マサ、真壁シゲルがNERV本部へ出勤するまえに立ち寄って利用した。

硬化ペークライト

加持リョウジがドイツ第3支部から運んできた、アダムとされる生命体を固めていたフェノール樹脂。ペークライトを参照。



硬化ペークライトによって固められていてもなお生きているという、アダムとされる発見。

高機動モード

EVAの操縦モードのひとつ。操縦者の思考言語が優先されるモードで、主に近距離戦闘を行なうときなどに使用される。神経接続をインターフェイスとして操縦者の思考伝達により操縦されるEVAにおいて、よりの確にEVAを動かすことができるモードといえよう。



コントロール、レバーのロックを解除することにより、高機動モードに変えられるシステムになっている。

拘束具

NERV本部ケイジ内のアンビリアル・ブリッジにEVAを固定する装置。EVA格納の際には何重もの拘束具が使用されているが、暴走などの不慮の事態に備えているためと考えられる。しかし、エントリープラグが挿入されていないEVA初号機が、第3使徒サキエル攻撃により落ちてきた蛍光灯から破シンジを守った際、右腕の拘束具が引きちぎられており、「拘束」という本来の役割を果たせているかは疑問といえよう。また、格納における拘束具とは別に、EVAの胴体を覆っている装甲板も、EVA本来の力を押しさえ込むための拘束具としての意味を持つ。初号機が第14使徒ゼルエルを捕食し、S機関を取り込んだ際に、膨張した肉体のため拘束具がはじけ飛んでしまう。拘束具の意味を成さなくなったことに対し、「初号機の覚醒と解放」に加持リョウジは称した。



胴体を包む初号機に耐え切れず、装甲板と呼ばれていた拘束具はあっさり破壊されていた。

広報部

NERVの部署のひとつ。公の情報操作を主に担当する。第3使徒サキエルとEVA初号機の戦闘後に行なわれた政府緊急記者発表において、事実を隠蔽するために用意されたシナリオB-22に基づき、一般人に向けた発表を行なった。また、第7使徒イストラフェルの初戦でEVAがブザマな戦北を見せたときの地理が大変だったようで、葛城ミサト作戦部長に対し苦情を申し立てている。



赤木リツコ曰く、広報部は使徒と初号機の戦闘によりヤと仕事ができたと喜んでいたらしい。

強羅絶対防衛線

NERV本部にとっての要地となる、神奈川県藤原郡箱根町にある防衛線。n地雷によって足止めをされていた第7使徒イストラフェルが再度進取た際に突破されるが、第7使徒はここを超えたところでEVA初号機と式号線のユニオンにより、二点のコアに過重攻撃を加えられ倒れることとなった。



要所である強羅絶対防衛線を突破されるが、それは二点同時過重攻撃のための作戦範囲内におびき寄せたためであった。

コード707

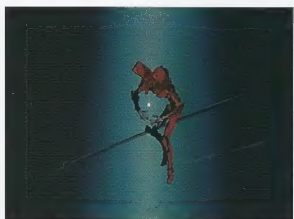
第3新東京市立第奇中学校を示すコード。葛城ミサトが加持リョウジに地下のアダムとされる存在とマルドック機関の秘密について聞いたとき、加持はこのコード707を調べてみるように言った。その後の調査の結果、破シンジたちが在籍するクラス2年組には、エヴァンゲリオン操縦資格者の候補者が集められていた事実が明らかになる。



ミサトにコード707について教示した加持は、マルドック機関が存在しないことにも言及した。

コキョートス

セントラルドグマ内の幽霊。第17使徒タプリスがターミナルドグマを目指して下降する際に、第2コキョートスを通じた旨が日向マコトから報告される。その直後、突如ドグマからタプリス退避の指示が出る。その直後、突如ドグマとはギリシヤ神話における死の国の川の川。死者はこの「暗き川」とも呼ばれる川を渡って冥界に入る。コキョートスという単語は「誘入される者」を意味しており、ダンテの『神曲』地獄篇に登場する地獄の最下層にある凍結地獄もコキョートスと呼ばれ、裏切り者が永遠に次演けにされ罰されている。カイン、トモエ、アンティノフ、ジュゼッタの四層に分かれた凍結地獄に似て、NERV本部のコキョートスも第4まで存在するのかもしれないが、詳細は不明。



セントラルドグマの封鎖壁は容易に武器機に破壊され、タプリスの第2コキュート突破を許すこととなった。

国際公務員

国連やその関連機関に勤務する職員。当然、国連直属の特務機関であるNERVに勤務する職員も、この国際公務員にあたる。第3使徒サキエル襲来の際、n地雷の余波を受けて損傷した愛車を、他の車のバッテリーを無断拝借して応急修理した葛城ミサト。そのことを非難する碓シンジに、彼女は「非常時だし国際公務員だし万幸オケー」と答えていた。しかし、シンジからは「戦得力に欠ける言い訳」だと切り替えられている。

国連

国際連合の略称。国際連合憲章の下に設立された国際機構で、世界平和と経済、社会発展のために協力することを目的とする団体。本部は第2新東京市に置かれている。NERVはこの国連直属の特務機関であり、有事の際は超法規的活動が認められている。

国連軍

世界の治安維持と、使徒に対する防衛を目指して結成された国連の軍隊。セカンドインパクトによる動乱のちに結成され、各国の軍隊が編入されている。第3使徒サキエル襲来の際に総力戦を試みるが、通常兵器しか所有していないために、A.T.フィールドを持つ使徒には全くダメージを与えることができなかった。



重戦車機や大型ミサイル、n地雷まで使用した攻撃をするが、使徒に対しては効果がなかった。

国連軍高官

第3使徒サキエルとの戦闘で国連軍に指示を与えていた人々たち。国連軍の総力をかけた猛攻を物ともしい使徒とい

うもの存在に驚愕していた。また、第9使徒マトリエルが襲来したときは、迎撃体制をとらないNERV本部を訝しむが、航空部隊の内声によって第3新東京市へ使徒襲来を告げるように指示している。それを日向マコが聞きつけたおかげで、停電の最中での使徒迎撃につながったといえよう。



自分たちの無力さを理解した国連軍高官たちは、使徒襲来作戦の指揮権をNERVへと委譲した。

心のかたち、人のかたち

第2使徒のサブタイトル。英文タイトルは「WEAVING A STORY 2: oral stage」。訳は「紡がれる物語2: 口座期」となる。口座期とはリビドー発達におけるもっとも初期の段階であり、フロイトが定義した性器性欲の前段階たる幼児性欲の第一段階。誕生から生後1年半頃までの、口唇を介した刺激により性的快感を得ている時期を指す。その後は、肛門期、男根期と展開されている。また第2使徒話において、EVA初号機に取り込まれた碓シンジが生還したのちに、葛城ミサトが加トリウヅグのものへと向かう車の中であつたラジオ番組のDJは、ハガキを送ってきた男性に対して「オーラルステージ」だと称し、辛稼夫コメントを返していた。なお、第拾四話「ゼーレ、魂の座」の英文タイトルは「WEAVING A STORY」であつた。



初号機に取り込まれているシンジが見た母の乳房を含むイメージは、口座期を思わせるものである。

コダマ

渥木ヒカリの姉。年齢など、詳細は不明。ヒカリは、コダマの男友達が豊彦・アスカ・ラングレーとデートをしたと聞いたために仲介を任されたことがある。男友達がアスカを見知っていることから、コダマは第3新東京市立第奇中学校の上級生（3年生）とも考えられる。

コトコ

葛城ミサトの友人の名。既婚者。ミサトが言うところの「三

十路前だからっていつもこいつも焦りやがって」「【どいつもこいつも】のひとり。赤木リツコとの会話を登場していることから、大学時代の共通の友人と推測される。ちなみにミサトは、紺のドレスを着てコトコの結婚式に出席した。



リツコとミサトが、結婚式に置いて紅い顔をしている顔に出た名前である。その会話において、キヨミという友人の存在も確認される。

駒ヶ岳防衛線

第3新東京市の東南、神奈川県郡縣橋明元端橋に位置する。NERV本部防衛の要衝。対空迎撃用の兵器などの防衛施設がある。しかし、第14使徒ゼルエルが第2新東京市を目指し進軍してきた際には、何の効力も發揮することなく突破された。また、戦時自衛隊がNERVの直接占拠を目的して攻撃を仕掛けた際、第2司令所のオペレーターはこの駒ヶ岳防衛線と二子山の緊急封鎖を指示していた。



駒ヶ岳防衛線における対空防衛施設はかなりの戦力を保有しているようだが、使徒に適用するものではなかった。

固有波形パターン

EVA初号機が倒した第4使徒シャムシエルを分析することにより明らかになった、使徒独自の固有波形パターン。そのパターンは、構成素材の違いはあるものの、信号の配置と座標は人間の遺伝子と99.89%一致していた。



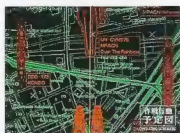
倒された第4使徒は、コア以外ほぼ複製を留めていたために、正確な分光学的解析を行うことが可能であった。

こんごう

国連海軍の太平洋艦隊に所属する護衛艦（駆逐艦）。海上自衛隊が保有していたイージス艦のこんごう型護衛艦が、セカンドインパクト後に国連軍へ編入されたものと思われる。なお、太平洋戦争において活躍した日本海軍の駆逐艦巡洋艦の名も金剛といひ、この名を持つ艦は基本設計が海外で成されているという共通点を持つ。

E

エクストラシート
xtra Sheet



左がこんごう。各種記号のDDG-173から、こんごう型機体艦だと思われるが、詳細は不明。

コントロール・レバー

エントリープラグ内にある、EVAを操縦するためのレバー。ロックを解除すると、思考の伝達を優先してEVAを操作することのできる高機動モードに変換可能。また、火器使用時などに目標を正確に補正するため手動で操作するインダクション・モードもある。インダクション・レバーも参照。



コントロール・レバーは操縦者の左右の腕に運動するようになっている。

コンフォート17マンション

葛城ミサトの住むマンション。12階建ての全158室で、11階の121号室にミサトの部屋がある。マンションの正面玄関前には4車線道路が走っており、地下は駐車場となっている。部屋の鍵はカードキー式。リビングにダイニングキッチンのほか、ミサトの寝起きする7.5畳の和室と6畳の洋間と納戸のある3LDK。当初の同居者はペンペンのみだったが、のちに碓シンジ、続いて惣流・アスカ・ラングレーも同居することとなる。



第3東京京市の郊外に位置し、市立産業光学試験場と観測衛星の間に隣つ。

さ 行

CATEGORY



Glossary

サーチ衛星

偵察用の人工衛星。インド洋上空衛星軌道上に現れた第10

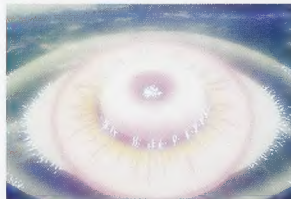
使徒サハワリエルを解析するために投入された。しかし、サーチしてデータ送信を開始、NERV本部で解析を始めた直後にA.T.フィールドの力を受け圧壊してしまう。



サハワリエルのデータ解析を試みるため、使徒を挟み込むように近づく2基のサーチ衛星。

サードインパクト

使徒がアダムと接触することで起こるといわれるセカンドインパクト級の重大事。加持リョウジは、これにより人類が滅亡すると碓シンジに話した。NERVはサードインパクトの発生を未然に防ぐための組織でもある。確かに使徒とアダムの接触はヒトの滅びを生むものであったのだが、サードインパクトとはゼーレの推進する人類補完計画の要であった。すべての使徒殲滅後、ゼーレの思惑通り、S機関を解放したEVAシリーズによりEVA初号機を依代として引き起こされる。その結果、巨大な爆発が発生。人類は次々にL.C.L.と化してしまいが、果たしてこれがゼーレ（碓ゲンドウ）の望んだ「サードインパクト」（人類の補完）だったのだろうか。



サードインパクトの発生により起きた巨大な爆発は、まるで目玉のようなかたちを生む。

サードチルドレン

マルドゥック機関が選出した3人目のエヴァンゲリオン操縦候補者。碓シンジがサードチルドレンであり、EVA初号機の専属操縦者となる。シンジが初めてNERV本部を訪れた際、父であるゲンドウは息子を「予備」と呼んだが、彼のポテンシャルは高く、選合格者の中では最も多数の使徒を殲滅し、その力量を示した。碓シンジも参照。



最終話において、ハーモニクステストを手伝う男性オペレーターは、サードチルドレンのことを、「EVAに乗るために生まれてきたという子供」と呼んだ。

再起動

システムを起動しなおすこと。何らかの要因でシステムに不具合が生じた場合や、システムに変更や追加をしたときなどになる。EVA初号機は、活動停止状態からの再起動現象が度々確認されている。これは操縦者およびNERV本部発令所などの制御下で行なわれる通常の再起動とは異なり、初号機自身による本来ありえない再起動である。「初号機の自律的ともいえる再起動＝暴走」はEVAの伺い知れぬ力、その一端の発露ともいえる。なお、EVA等号機の2度目および改裝後の起動実験を再起動実験と呼んでいる。暴走も参照。



自律的とも見て取れる初号機の再起動は「暴走」と呼ばれる。

再起動実験

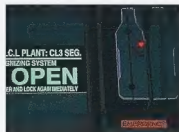
2度目となるEVA等号機の起動実験。滞りなく成功するが、運動試験に入る直前に使徒襲撃の報がもたらされたため実験は中断された。なお、NERV本部第2実験場で行われた1度目の起動実験では、等号機が制御不能に陥ったため実験は失敗に終わっている。その際、操縦者の精神レベルは重傷を負い、機体は特殊ベークライトによって凍結された。失敗した理由は「レイの精神が乱れたため」と赤木リツコは分析している。



ゲンドウの願望を持ち込んで再起動実験に臨んだレイ。それが彼女の精神安定をもたらしたのだが、実験は無事成功する。

最後のシ者

第14話四話のサブタイトル。英文タイトルは「The Beginning and the End, or "Knock on Heaven's Door"」。訳すと「始まりであり終わる、または天国の扉を叩く」となる。「始まる」と「終わる」とは新約聖書にあるヨハネの黙示録22章13節にある言葉。



ターミナルドグマにある、アダムとされる存在が閉鎖されている。L.C.L.プラグメントの扉を、日向つとらに「Heaven's Door」と呼んでいる。